

令和4年度 一宮小学校 総括評価表 ①

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	今後の改善方策
基礎学力の定着が十分でない児童がいる。 読解力・思考力に課題がある。	<p>I) <u>確かな学力の育成</u></p> <p>① 主体的に学ぶ意欲を高め、自ら学び、自ら考える力を育成する。</p> <p>② 一人ひとりの個性や能力に応じた指導に取り組む、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。</p> <p>③ 言語活動を充実し、表現し、伝え合う力(コミュニケーション力)を育成する。</p> <p>④ 家庭学習や読書の習慣の定着を図る。</p>	<p>評 価 指 標</p> <p>①-1 児童・保護者アンケートによる「学習意欲」の達成率80%以上 ①-2 授業中に学習の目標を提示し、單元ごとに振り返りの時間をとる。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 学習意欲に関して、達成率は児童79%、保護者77%となり、児童は指標を下回り、保護者は指標程度の結果となった。 ①-2 学習のめあてを提示し、單元ごとの振り返りの時間をとることができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>学校からの課題が十分にできていないと自覚している児童が一定数いる。保護者からのアンケート結果にも、同様の結果が見られるため、家庭学習の取り組み方に課題があることが分かった。</p> <p>少人数を生かした個別指導により、力がついてきている。ただ、児童・保護者ともに学習意欲の指標を上回ることができていないため、引き続き意識しながら指導を継続する必要がある。</p> <p>昨年より、相手にわかりやすく書いたり話したりすることへの苦手意識が減っていることが、アンケート結果から分かる。</p>	<p>① 学習意欲は指標を下回っているため、今後も、主体的な学習ができるよう工夫していく。</p> <p>② 今後も個に応じた指導を継続し、長所を生かせるような工夫が必要。</p> <p>③ 基礎学力を定着させるために、今後も取り組みを引き続き行う。</p> <p>④ 集中して学習や読書に取り組むことに課題が見られる。家庭への啓発が今後も必要である。また、引き続き学年の発達段階に応じて、相手にわかりやすい話し方や書き方の指導を取り入れる。</p>
		<p>②-1 単元テストについて 年間平均点が1～3年生 80点以上 4～6年生 70点以上 が80%以上 ②-2 児童・保護者アンケートによる「学習内容の理解」の達成率80%以上</p>	<p>②-1 単元テストの年間平均点については指標を達成できた。 ②-2 学習内容の理解についての達成率は、児童72%、保護者92%となり、保護者については指標を上回った。</p>		
		<p>③-1 児童・保護者アンケートによる「相手によく伝わる話し方・書き方」の達成率70%以上 ③-2 学級活動の話し合い活動を月に1回以上実施</p>	<p>③-1 達成率は、児童75%、保護者82%となり、児童・保護者ともに指標を上回った。 ③-2 学級活動の話し合い活動に関しては、指標を達成できた。</p>		
		<p>④-1 児童・保護者アンケートによる「家庭学習の時間」の達成率80%以上 ④-2 週2回、朝の読書の時間をとる。</p>	<p>④-1 家庭学習の時間について、児童62%、保護者67%となり、児童、保護者ともに指標を下回った。 ④-2 週2回、朝の読書の時間をとることができた。</p>		
		<p>活 動 計 画</p> <p>①-1 グループでの学習や話し合い活動の取り入れによる授業の充実を図る。 ①-2 授業中自分のする事が分かり、主体的に取り組めるように支援する。</p> <p>②-1 個別学習を中心に、児童個々の学力に応じた指導を展開する。 ②-2 週1回、朝ドリルの時間を設定し、学習内容の定着を図る。</p> <p>③-1 各教科の授業の中で、書く時間や発表する時間を増やしたり、根拠を明らかにした発言を促したりする。 ③-2 学級活動の時間の活性化を進める。</p> <p>④ 家庭と連携しながら、学年に応じた家庭学習の進め方の指導を行う。また、朝の読書タイムの充実や図書室の利用促進を図るとともに、担任の読み聞かせや本の紹介を行い様々な本と出会う機会をつくる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 3密を避けながら、グループ学習や話し合い活動の場を十分に確保することができた。 ①-2 授業の流れがみえる板書の工夫や、既習の事項を確認し、見通しをもって課題に取り組めるようにした。</p> <p>②-1 各担任が児童の実態をつかみ、個々に応じた学習を行ってきたが、児童の自信につながっていない。 ②-2 朝ドリルの時間を利用して、学習内容の定着を図った。</p> <p>③-1 各教科を通して、各単元のまとめとして、自分の意見や考えを書いた。また、全ての教科において発表する活動を多く取り入れてきた。 ③-2 発達段階に合わせて、話し合い活動を行ってきたが、主体的な取組まではいたっていない。</p> <p>④ 家庭と連絡を密に取りながら、児童の実態に応じた学習方法を奨励してきた。図書委員会を中心に読書に関する集会活動や担任・ボランティアによる本の読み聞かせや紹介によって、興味をもつことができたが、進んで読書を行う児童は少ない。</p>		

「総合評価」における「評定」の基準 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった